

2010年度 学校評価

2010年度 神戸学院大学附属高等学校 * 5点満点で記入						
学校教育目標						
社会の中で自分を表現できる能力、自ら問題を発見し、解決・分析していく能力を身につけた人間を育成する。						
重点目標						
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に意欲を持って学習できる生徒の育成 多様化する生徒に応じた進路の確保 国際感覚を身につけた生徒の育成 教育の情報化の推進 						
領域	評価の観点	評価項目	実践目標	2009評価	2010評価	
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校ホームページ、情報通信、育友会新聞を活用して情報を提供する	4.2	4.4	
		学校公開の取り組み	公開授業、オープンハイスクールの実施	4.0	4.1	
		地域との交流	区、地域主催の行事に参加するとともに運営の手助けをする	3.6	3.5	
		育友会活動	育友会の学校行事参加協力ならびに研修会の実施	3.7	4.1	
	学校運営全般	教育目標達成	教育目標達成に向けて教員が共通理解し、意欲的に取り組む	3.3	3.3	
		校務分掌	教育活動が組織的に機能するよう配慮する	3.4	3.1	
		各種委員会機能	分掌間の連携を取ると共に、各種委員会の開催により機能を調節する	3.4	3.2	
		学年学級経営	共通認識を持った学級運営を学年で調整し、適切な教育活動を図る	3.6	3.5	
	生徒指導	生徒指導方針の共通理解と指導体制の確立	生徒指導方針を明確にし、教員間で共通認識を持った形で指導に当たる	3.2	3.3	
		基本的な生活習慣の確立	挨拶、時間厳守、言葉遣いなど高校生活にふさわしい行動と身なりができる生徒の育成	3.3	3.4	
		交通安全指導	通学マナーを守り、交通安全を心掛けるよう指導し、登下校指導を行う	3.3	3.1	
		生徒理解の取り組み	個別相談を定期的に行う。パソコンを使った情報収集を徹底する。カウンセラーによる教育相談	3.4	3.5	
	進路指導	地域・関係機関との連携	地域、諸機関との連絡を密にし、中学校とも情報交換し、連携した指導を行う	3.3	3.3	
		進路指導体制の充実	3年間を見据えた年間計画を作成し、継続的に組織的に進路指導する	3.4	3.3	
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	外部講師による進路講演会を開催し、生徒の職業観・勤労観を高め、進路通信などを通して意識を高めていく。	3.9	3.8	
		進路に対応した学力の育成	早期学習や受験講座、長期休暇補習、学習合宿によって必要な学力の向上をめざす。	3.9	3.9	
	教職員の資質向上	個々の生徒に適した指導の充実	個別面談、進路調査により、生徒の希望、適性を知り、個々に適した指導をする	3.5	3.6	
		実践的指導力の向上	年間を通して公開授業を実施し、授業における指導力の向上に努める	3.6	3.6	
計画性を持った研修の実施		人権などの各種校内研修を実施し、校外研修にも参加できる体制を整える	3.3	3.4		
社会の変化に対応した教育観の育成		外部情報を積極的に取り入れ、各部会において積極的に社会変化に対応した教育システム作りを行う	3.1	3.3		
危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	学校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成し、内容を周知徹底する	3.2	3.4		
	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	家庭・地域・関係機関と連絡を密にし、必要な情報を得、対策を検討する	3.5	3.5		
	実践的な安全教育への取り組み	全校集会、防災訓練等を実施する	3.6	3.8		
教育課程	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	定期考査並びに実力試験の実施によって学力を把握し、それに基づいた評価を行う	3.8	3.8	
		達成感ある指導方法の確立	達成感が味わえる授業の工夫を行う	3.4	3.6	
		学習姿勢の育成	自ら学習計画を立て意欲的に学習に取り組む姿勢を養う	3.2	3.5	
	個に応じた学習指導	指導形態の工夫	選択授業や少人数教育による学習能力に応じた指導を行う	3.4	3.5	
		評価方法の創意工夫	各教科に応じた評価基準を作成し、共通認識のもとに評価点検を実施する	3.4	3.4	
	自学自習の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	体験的学習、問題解決学習が効率を上げる教科においては積極的に取り入れ実践する	3.5	3.6	
		興味・関心を高める指導	生徒が興味をいづく授業を工夫し、積極的な学習態度を要請する	3.4	3.6	
	総合的な学習の時間	指導体制の確立	担当教員の連絡を密にし、目的に沿った展開を工夫する	3.4	3.8	
		目標達成	学習した内容の発表の場をつくることによって目的が達成されたか確認できるようにする	3.6	3.8	
	特別活動	社会性を育てる特別活動	人とのかかわりを重視した活動	社会人講師による授業計画により社会を実感させる	3.5	3.5
		部活動の活性化	部活動の活性化	生徒に関心を持たせるとともに積極的な参加意識を養う	3.6	3.7
			生徒の主体性を育む学校行事の確立	文化的運動的感性を育てるような行事を工夫し、主体的に参加できるよう指導する	3.2	3.6
ホームルーム活動の活性化		ホームルーム活動の活性化	計画的なホームルーム活動を立案し、生徒が主体的に考える時間とする	3.1	3.4	
		教育活動における体育活動	体育大会、球技大会、などの体育行事を工夫し、生徒が達成感を味わえるようにする	3.1	3.6	
体力・運動能力の向上		教育活動における体育活動	体育大会、球技大会、などの体育行事を工夫し、生徒が達成感を味わえるようにする	3.1	3.6	
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災訓練を立案し、教員が共通認識を持ち、教員の救急講習や研修を行う	3.5	3.8	
		人権教育	人権教育推進体制への取り組み	教員、生徒に対して研修会を立案し、人権について考える機会を設ける	3.6	3.9
	情報教育	情報活用能力の育成	情報授業を中心に、生徒の正しい情報活用能力の育成に努める	3.9	3.9	
		情報機器を使った授業の推進	情報の授業以外の教科や、学校生活での日常においてコンピューターを使用する機会を工夫する	3.4	3.5	
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解	修学旅行、語学研修を通して外国の歴史・文化を学ぶ	3.9	4.2	
		交流事業の推進	留学制度の充実、学校交流の実施を積極的に進行	4.0	4.2	
	環境・福祉教育	福祉体験活動の充実	福祉施設などへのワーキング活動参加や総合的な学習の時間で展開を組み立てる	3.7	3.8	
		環境への関心を高め、環境学習をいろいろな学習の場で組み立てる	環境への関心を高め、環境学習をいろいろな学習の場で組み立てる	3.3	3.5	
	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成	生徒の関心、進路によって教育課程を工夫し適切な選択を指導する	3.4	3.5	
		高大連携教育の推進	附属高等学校の利点を生かし、生き方、進路における学習活動を大学と共同で組み立てる	3.5	3.5	
				3.5	3.6	

2010 年度学校評価は教員による学校評価、自己評価、1 年生徒・保護者による学校アンケートを実施しました。

ここには今後の課題として、教員 3 5 名による学校評価について簡単にまとめ報告します。

教員による学校評価は質問項目ごとにあてはまる度合いについて 1~5 ポイントで評定をつけ項目間比較をするようにしました。表中の数値は、質問項目に対する教員の回答の平均値です。平均化すると、極端に低いもの高いものが見られなくなりますが、あくまで傾向で見た結果を下にまとめてみました。学校評価は 2 年目になりましたので、達成度を見る意味で、2 年間の評価を並べ変化も見てみました。

比較的评价が高いもの

開かれた学校づくり、進路指導における取組みとして外部講師による職業観、勤労観の育成、授業以外の補習活動、実力試験や定期考査による学力把握、情報教育や国際教育が昨年に続いて高い評価となっています。実際これらの活動は他に比べ活発に実施されていると思われます。今年度評価が伸びてきたものとして総合的な学習の時間があげられます。ここ何年間の取組みの中で、実施内容が固定化され内容も充実してきていることがこの結果につながっていると思われます。また保護者とのつながり（育友会活動）も高い評価を得てきているので、このことが生徒の教育活動につながっていることの検証も必要なことかと考えています。

比較的评价の低いもの

生徒指導の共通理解と指導体制、社会変化に対応した各部の企画が昨年に続いて低い評価となっています。また、学校運営における組織的な機能、委員会の機能が昨年も高くはなかったですが、今年はさらに低くなっているのが気になるところです。学校運営にかかわるところが低くなっている状況は早急に原因を突き止め改善していく必要があります。

今回の調査は学校評価活動の一環に過ぎず、今後この結果をもとに学校活動を精査し、よりよい教育活動を行っていく必要があります。